



はくぶつかん しょうじょ
博物館の少女

とみやすよう こ かいせいしゃ
富安陽子作 偕成社

大阪の古物商の娘イカルは両親を亡くし、明治十六年、親戚を頼り東京へやってきた。上野の博物館を訪れ、館長に目利きの才を見込まれたイカルは、博物館裏の古蔵で怪異を研究する「トノサマ」の助手になる。その古蔵に泥棒が入ったため台帳と品物を照合してみると、「黒手匣」という収蔵品がなくなっていることがわかった。行方を探すイカルたちは、黒手匣の奇怪な秘密に迫っていく。文明開化の雰囲気味わえる、怪異ミステリー。

